
恋鈴明

蓮華草

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋鈴明

【Nコード】

N2318F

【作者名】

蓮華草

【あらすじ】

ここは第一香雅学校・・・ここで高校生の鈴と親友の明の恋が始まる・・・

一話 学校

登場人物

主人公 綾瀬 鈴

年 17くらい

鈴は学校で一番の人気者。

友達いっぱい、

とても男子から好かれてる。

が、手は出せない（明の兄がいるから）

友達 狩野 明

年 18才（早生まれ）

鈴の良き相談相手。

明も男子から好かれるが、

鈴よりは少ない・・・かも

だが男子に恐れられてる兄がいるから

まず告白はできない。

友達の兄 狩野 海

年 18（明より一ヶ月先に生まれた）

明の兄貴。

みんなに海様と言われる。

怪力で明か明の親友を泣かせると、

地獄に送るといわれるらしい・・・

実際に泣かせた奴はかならず病院に入院！

えっと登場人物紹介はこれくらいです。

一話はじめます。

一話 学校

鈴「あの・・・どいてくれませんか・・・」

男子「はい！鈴様！」

鈴「・・・><」

「お前ら邪魔。俺の親友に迷惑かけてねーよな？」

ビクウ「・・・」

男子「は・・・はい！海さまっ！」

海「それでいい。んで鈴平気か？」

鈴「あ・・・うん海くん」

海「あと、俺がいなくなっても手え出すんじゃないよ。な！」

男子「すみませーん！」

ピューーーーーー

海「明 これでいいだろ」

明「うん兄さん」

鈴「・・・（怖かった・・・><）」

明「大丈夫？」

鈴「うん・・・」

キンコーンカーンコーン キンコーンカーンコーン

先生「授業を始める前に、転校生を紹介します。いらっしやい」

ガラガラ．．．．

先生「この子は、月詠 星夜くんよ」

星夜「よろしくお願いします」

ざわざわざわ．．．

「あの男子かっこいい」

「名前もかっこいいし．．．うふふ．．．」

「あの男子イケメンだ！鈴様が取られるー！><」

先生「黙ってください！」

しーしーん

先生「では星夜くんは鈴ちゃんの隣よ」

鈴「あ．．．あの．．．」

星夜「よろしく。鈴ちゃん^^」

イライラ．．．．

明「何．．．このイヤーな殺気は．．．」

男子「転校生え．．．鈴様には様をつけるよナア．．．」

星夜「ちゃんでもいいと思う」

男子「生意気だなオメエ．．．」

先生「こら。男子！転校生を鈴ちゃんの前でいじめない！嫌われるよ」

男子「（ガーン）す．．．すみません鈴様！」

鈴「別にいいよ。席に着かないとだめだよ？」

男子「はぁーい」

キンコンカーンコン　キンコンカーンコン

さよーならー

帰り道

鈴「転校生かぁ．．．」

明「かつこいいよねー　あとこっちが通学路だつて」

鈴「え．．．そこ私の通学路．．．」

明「げげっ！　もしや鈴様隊の地域．．．」

（鈴様隊とは学校の男子が鈴を守るために作った隊のこと）

鈴「．．．．．やっぱり．．．><」

鈴様護衛隊「まじで．．．」

明「そこにいんのは、だれだっ！」

鈴様護衛隊「あ、明様．．．」

鈴「はうう．．．星夜くんの話し聞かれたの．．．」

鈴様護衛隊「はい．．．すみません！」

明「いじめたら鈴が泣くよお・・・」

鈴「あ・・・星夜くんイジメないんだよ・・・」

鈴様護衛隊「イエス！仰せのままに」

じろ――

じろ――――

じろ――――――

明「（これは鈴も疲れる^^;）」

続く（*。。*）

一話 学校（後書き）

本当に適当な一つ目の作品となりました^^；
でも一日一話ずつ最新します。

詠んでくれている方。ありがとうございます*^

^*

第二話 疑問（前書き）

ぐだぐだになりかけてます・・・
一話見ないと話読めません・・・

第二話 疑問

次の日……

鈴「行つて来ます」

母親「行つてらっしゃい」

通学路

鈴「（星夜くんいないよね……）」

辺りをきよきよと見ている鈴はイヤーな殺気を感じた

鈴「まさか……」

そうだった時にはもう遅かった……

星夜が近く来ていた……

星夜「おはよう鈴ちゃん」

鈴「お……おはよう」

イライライライラ………！！

鈴はとてもじゃないが笑顔といえないくらい殺気を感じた……
（このままじゃ……星夜くんが……星夜くんがー！）

鈴「星夜くん あっちに行こう」

星夜「デートっぱいなこの雰囲気」

イライライライライラ………！！

そこにちょうど明の兄が来た。

海「よお転校生クン 間違っても明には手えだすなよ！」

星夜「だれですか？明って人は」

メキツ「……」

メキメキ「……！」

海「今、呼び捨てしたよな。うん」

鈴「あ、明……たすけて……」

「俺達の鈴様にてをだすなあ！」

ドカドカドカ「……」

海「あ、怒りで我を忘れてた……」

「鈴様……」

ボタン「……」

鈴「み……みんなあ……><」

星夜「大丈夫ですか？」

鈴「海さん……次ぎやったら明にいいますよ……！」

その言葉を聴いて海は泣き始めた……

海「俺……明に「大嫌い！」っていわれるのかなあ……」

星夜「大丈夫ですよ。鈴ちゃんはそのんことしないで」
海「マジ？やったーーーーー」

鈴「ああ……星夜くん優しいなあ……」

明「鈴おっはよー」

明「ん？」

鈴「ぽやーん……」

明「鈴……拓海のこと……」

その近くにいた男子

拓海「ん？なんか鈴に危険が……んなわけないか」

明「ひどいね……好きな人いないっていつてたのに……！」

学校 休み時間

鈴「明」

明「何？！邪魔」

鈴「あう……拓う……><」

拓海「なにしてるんだ！明！」

明「た……拓海くん……」

鈴「ぐすん……明……いじわるう……」

拓海「明はひどい奴だ！俺の姉貴いじめて！」

明「あ……姉貴？」

拓海「っ・・・」

明「もしかして鈴が拓海くんの姉？」

鈴「ちがうのっ！」

拓海「んなわけねーだろ。行こう鈴」

鈴「うん・・・」

そして明との楽しい日々は壊されていく・・・
キンコンカーンコン　キンコンカーンコン

鈴の家

拓海「姉貴・・・マジやばかったな・・・」

鈴「うん・・・バレるところだった・・・」

（実はマジきょーだい。1にち誕生日が違うだけ。）

明の家　　明の部屋

明「なにあれ・・・」

・・・

明「鈴なんて・・・」

RRRRRRRR

鈴「あーケータイがなってる」

ガチャ・・・

鈴「もしもし？」

「ブス」

ツーツー

鈴「拓ーなんか変な電話が・・・」
拓「今度は俺が出るよ。」

R R R R R R

拓海「もしもし」

「っ・・・」

ツーツー

明「なんで拓海君がっ・・・」

鈴「あの声もしかして・・・明？」

二人は勘違いで仲間割れし

この溝は埋まらなくなるような事になる・・・

続く

おまけ

登場人物

名前 瀬木 拓海（異名）

年 鈴と同じ

優しく、とっても姉思い（鈴）

しかも意外と美形。

だが、とてつもなく強い。

名前 星夜 フルネームじゃなくてすみません

年 18才

美形。優しい。頭がいい。運動神経抜群の
最強モテモテ男・・・

好きな人の名前を消しゴムの裏に書く事を

してるらしい・・・

おまけ終わり

（たまにオマケがあります。）

第二話 疑問（後書き）

変な文ですみません ><
でも読んでくれる方・・・
感謝です（* > < *）

第三話 悲劇（前書き）

えーいきなり始まります。

ご注意ください。（あ

お恥ずかしい・・・壁――＊）ひっこり・・・
顔文字・・・下手すぎ・・・（おい・・・

第三話 悲劇

次の日

拓海「おい！遅刻するぞ！」

鈴「今日は土．．．」

．．．

拓海「今日は特別だろ．．．」

（休みを2日増やすスペシャルな日）

鈴「お休みー！」

ドドドドッ

パクパクパク

むしゃむしゃ

シャカシャカシャカ．．．

いつてきまー！す

拓海「早すぎ．．．俺まだんだけど．．．」

明の家

明「今日は特別の日．．．」

明「鈴をいじめる大チャンス．．．」

海「明．．．」

学校

キンコーンカーンコーン キンコーンカーンコーン
先生「今日はと．．．」

ガサガサ・・・

紙には「嘘つき」と書いた紙があつた・・・

鈴「先生。」

先生「なんですか？」

鈴「明がこんな紙を・・・」

先生「明さん。家族に言いますからね。」

明「いいですよ。ええどうぞ。鈴は私から好きな人を奪ったからね」

みんな「え・・・・・・・・・・」

明「だって拓海くんとデートしてるところ見たし。」

みんな「うわ・・・あんな人だったんだ・・・」

ざわざわざわ・・・

鈴「（明・・・卑怯・・・）」

鈴「黙って！弟のこと悪く言っなっ！」

女子「え・・・愛しの拓海様の姉・・・？」

明「嘘つき」

拓海「そうですが何？姉貴を虐める気？」

明「え・・・・・・・・・・」

鈴「明。そう言うこと。あなたは「拓にきらわれた」の・・・」

明「嘘・・・言・・・わな・・・いでよ・・・あなたがじつと見てたのは・・・」

？」

拓「ひどい人に言う義理はないよね。姉さん……」

鈴「明。ごめんね。。でも明の評判は確実に悪くなったよ……」

明「あつそ……」

すたすた……

明「私帰るから。さようなら」

この日明は気づいた思う……

自分の過ちに……

だからあえて罪償いに

髪を切り性格も変えて名前も変えた……

そして、転校した……

一カ月後

鈴「星夜おはよう^^」

星夜「よう……」

そして、鈴は星夜と恋人になる決意をした……

私が明の恋を壊したからせめてもの償いとして

星夜に告白しよう。そして幸せになろうと……

続く

第三話 悲劇（後書き）

いやーもうそろそろねた切れなんで、
おわりそうです

やばいので、次の小説の名前かんがえまーす
次は多分イジメ小説です

理由（学校でイジメられてる人とかいるから、皆さんにその人の悲しみとか分かってもらったほうが、良い
と思うので（え）

ほかのも・・・お楽しみに（マテ

最終話 恋鈴明（前書き）

四話で終わるみじかーい話です・・・

次の話は、イジメじゃなく、

妖精とかでる、ファンタジーな話にします（勝手！

題名は・・・「さよなら日々！」です（うわセンス無い^^；

最終話 恋鈴明

鈴「ねえ．．．星夜？」

星夜「なんだ？」

鈴「私。。星夜が好き．．．」

．．．．．

星夜「ごめん．．．無理なんだ．．．」

鈴「え．．．な．．．何で．．．」

星夜「もう少し．．．早く言っててくれたら．．．」

星夜「俺．．．明日引越すんだよ．．．」

ズキン．．．．

鈴「嘘だよね．．．嘘だよね．．．」

星夜「嘘じゃないんだ．．．．」

ひどいよ

私．．．私．．．

やっと素直になれたのに．．．．

神様

神様なんて大嫌い．．．意地悪．．．

鈴「神様なんて．．．．」

星夜「ご……ごめん……」

そして私の恋は幕を閉じた……

結局……叶う事がない儚い恋だったんだ……と

3年後……

ピンポン ピンポン

鈴「はい」

がちゃ……

「久しぶり……鈴ちゃん……」

鈴「星夜くん……？」

星夜「そうだよ……3年前の告白……覚えてる？」

鈴「うん……」

星夜「あの時……引越して後悔したんだ……」

星夜「鈴ちゃんのこと好きだったのに……てね」

鈴「もしかして……付き合ってくれるの？」

星夜「おう！」

神様ありがとう……

私の恋は散ることなく……

無事に咲きました

私って幸せものだなあ…………

よかった…………

星夜や明…………海にも会えて…………

END

最終話 恋鈴明（後書き）

あーあどうしようもない結末・・・

一日で終わる短い話だったですねー

次の小説は一章が30話二章が30話三章が40話で

最終章が50話（長すぎだなおい・・・

全部で150話（三日坊主

おまけ 明（前書き）

おまけ。

おまけ 明

私は 有月 蓮華・・・
でもこの名前は異名なんだ・・・
私の本名はね・・・

狩野 明

それは前の学校に転校生が来たときだった・・・
(恋鈴明2話と1話みてね)

鈴が拓海くんを・・・..
そう思ったとき・・・胸が痛くなつたんだよ・・・？

でも・・・結局・・・ね・・・

兄さんには迷惑かけたし・・・親にも・・・

だけど今は違う・・・

前の時見たいには・・・もうならない

蓮華「こう」

香「なあに？」

この人は香。優しい姉さん
だけど・・・本当は親友なの・・・

私はあの事件で・・・..
(3話をみてね)

でも、あの事件のおかげで新しい恋が芽生えたの．．

鈴．．．．？

鈴がどうなってるか分からないけど．．

星夜と仲良くするんだよ

拓海くん．．．．

ごめんね．．．

私はこの気持ちを隠し続ける．．

恋の事件だから．．．

蓮華「おはよう．．．連くん．．．」

連「早く眠気消せよな．．．」

この男の子は連^{れん}。

私の好きな人．．．

女の子「連ー 行こう」

連「蓮華と行くからいい」

女の子「イライライラ．．．」

蓮華「（正直．．．あの男子の気持ちが分かる．．．嫉妬．．．か

（二話参照）」

こんな毎日を過ごしている．．．

意外と楽しいんだよ

でも鈴がいないと．．．やっぱり寂しい．．．かな

連「蓮華？どうした」

蓮華「なんでもなーい」

この寂しさは鈴にまた逢えたときに・・・
いーっぱい言ってやるからね！

おまけ 明（後書き）

おまけです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2318f/>

恋鈴明

2010年10月16日12時20分発行